

## スマートシティ化は必要か

学生氏名 笥 凌太

指導教員 中村 智彰

### 研究背景

高松市における地域課題と行政施策を検討する過程で、「スマートシティたかまつ推進プラン」を重点施策として位置づけていることが明らかとなった。スマートシティ化は、都市の持続可能性を目的とする取り組みとして国内外で推進されているが、その一方で、プライバシー保護やデジタル格差といった懸念も指摘されている。そこから地域行政において本当にスマートシティ化が必要なのか検討していく。

### 研究目的

本研究では、スマートシティ化の地域経済への影響分析を行い、また事例分析や類似プロジェクトとの比較分析からスマートシティ化の成功・失敗要因の抽出を行うことで、スマートシティ化を行うべきかどうかの是非、また成功条件について新たな視点を提供することを目的とする。

### 研究方法

事例分析を主とする。前述したスマートシティたかまつ推進プランから成功・失敗要因に関しての仮説を立て、その仮説を検証するために、他県のスマートシティ成功・失敗事例と比較分析を行う。

### 分析結果

高松市の成功要因として「市民参加」「官民連携」「合意形成」「長期計画と豊富な財源」の4点が重要であることを、他都市の成功・失敗事例との比較から導いた。高知県四万十市や富山県富山市、福島県会津若松市の事例から、市民参加や官民連携、長期的支援体制が成果につながった一方、トロント（カナダ）では市民参加不足や合意形成の欠如が失敗要因となった。特に市民参加と合意形成は成功の前提条件であると結論づけた。

### 考察・結論

スマートシティ化の成功条件として、「市民参加の土台作り」、「官民連携のバランス」、「合意形成のプロセス」、「長期的な運用計画と財源確保」が重要であり、そこから、人口100万人前後の中規模都市においてスマートシティ化が成功しやすく、行うべきだと言える。